

J-POWERグループに期待する取り組み 「J-POWERグループ サステナビリティレポート2009 読者アンケート」

「環境経営」について	
ご意見	J-POWERグループの取り組み(ご意見に対するご回答)
環境保全に関しては1年とか2年の短期間で結果が出るものではないと考えます。 長期間続けていくことが重要かと思えますので、このまま続けて頂ければと思います。 これからも時代に合った環境経営を目指して頑張ってください。 地球環境を守りながら、人類に必要なエネルギーをどう開拓していくか、正しい視点で情熱をもち続けることが大切かと思えます。 人類にとって優しい企業であり続けるよう、期待しています。	2004年に制定した「J-POWERグループ環境経営ビジョン」の「基本方針」のもとに、エネルギーと環境の共生を目指して「地球環境問題への取り組み」、「地域環境問題への取り組み」、「透明性・信頼性への取り組み」を進めています。 【J-POWERグループ サステナビリティレポート2010：環境編P41～P42「J-POWERグループ環境経営ビジョン」をご参照ください。】
電気事業でどのように世界で展開していくのかもっと知らせ欲しい。 また、世界での事業展開に力をおいて頂きたい。 日本での発展は限界があるので、今後発展が見込まれる中国を始めとするアジアでの戦略を知らせて欲しい。 国際的技術支援事項に取り組んで頂きたい。	J-POWERグループは、海外技術協力をはじめとする約50年の実績を有する「海外コンサルティング事業」と第2の柱として注力する「海外発電事業」の両分野を推進し、日本国内で培った発電事業での環境保全技術などを活用して世界の持続可能な発展に貢献していきます。 【J-POWERグループ サステナビリティレポート2010：P9～P13を特集「海外での取り組み」として編集し、J-POWERグループの海外事業展開を紹介しています。】
環境会計の紙面が年毎に少なくなっているようです。 環境への配慮を重視した経営ということであれば、環境財務の詳細は説明・開示は是非とも必要であると考えます。 社会が関心を寄せます環境への配慮について、会計数値化を徹底して頂きたいと、希望致します。	環境省の環境会計ガイドラインなどを参考に、環境会計に関する情報開示に取り組んでいます。 なお、J-POWERグループ サステナビリティレポート2009より、環境会計に関する一部のデータを環境編より資料編へ移行(掲載)していますので、ご覧いただければ幸いです。
「地球環境問題への取り組み」について	
ご意見	J-POWERグループの取り組み(ご意見に対するご回答)
石炭利用によるCCS(CO ₂ 回収・貯留)技術の推進、成功を期待しています。 地球温暖化防止のため、化石燃料の燃焼によって排出されるCO ₂ の分離回収は喫緊の問題であるが、その点に関して大崎クールジェン㈱の設立は評価できる。 今後ともこの事業を更に推進発展すべき。 石炭火力からのCO ₂ 回収技術には大変興味深く読みました。 この技術が確立すると地球温暖化問題も大きく前進すると期待しています。 CCS(CO ₂ 回収・貯留)技術の早期実用化(進捗状況の開示)を希望する。	石炭火力発電所との関連性が深いCO ₂ の回収・貯留(CCS)技術は地球温暖化対策の有望技術のひとつであり、J-POWERでは関係する様々な技術開発を実施しています。 【J-POWERグループ サステナビリティレポート2010：環境編P54に「大崎クールジェン㈱の設立」、「CO ₂ 回収・貯留(CCS)関連技術に関する様々な試み」を掲載しています。】
化石燃料の中で最も埋蔵量が多い石炭(世界の発電電力量の4割を占める)の高効率利用技術をJ-POWERは持っている。 世界の地球温暖化対策に貢献してもらいたい。 石炭利用と地球温暖化対策について、より一層の取り組み強化をして欲しい。 石炭の効率的な利用法について期待しています。	石炭火力発電所からのCO ₂ 排出量を削減するためには発電効率の向上が有効であり、礪子火力発電所における世界最高水準となる超々臨界圧技術(主蒸気圧力25MPa、主蒸気温度600℃)開発などに鋭意取り組んでいます。 【J-POWERグループ サステナビリティレポート2010：環境編P47～P48に「エネルギー利用効率の維持・向上」、P53に「EAGLEプロジェクトへの取り組み」などを掲載しています。】
地熱、風力、波動、廃棄物発電について、今後について検討して欲しい。 地球環境の為に「木質バイオマス」や「下水汚泥の廃棄物等の燃料使用」の推進を期待します。 地球環境問題に真剣に取り組んで、人と環境にやさしい、エネルギーの創出に社力を発揮して頂きたいと思います。 今後の日本・世界の状況を考えますと、やはり自然エネルギーによる開発が重要だと思います。 風力、太陽光など自然エネルギーも活用を期待します。 太陽光発電の研究や電気自動車に対する取り組みについて期待しています。	CO ₂ 排出の少ない電源として、水力発電や風力発電、バイオマスの有効活用、地熱発電などの再生可能エネルギーの有効活用を図っています。 【J-POWERグループ サステナビリティレポート2010：P49～P52に「CO ₂ 排出の少ない電源の開発」を掲載し、水力・風力・バイオマス・地熱・太陽光発電への取り組みを紹介しています。】
風力発電について、海上開発も取り込んではと考えます。 海洋国日本の技術力で自然エネルギーを追求していただきたいと思います。	洋上風力への取り組みとしては、2008年度、2009年度に新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)による洋上風力の実証研究を受託しています。 また、NEDOの実証研究の他、J-POWER独自の知見の収集として、国内外の洋上風力プロジェクトの情報収集等を実施しており、将来の事業化に向けて準備を進めています。
CO ₂ 削減が問われる昨今、化石燃料の使用がリスクと考えられることから、一層の取り組みをお願いしたい。 地球温暖化対策の推進を宜しく願います。 エネルギーの低炭素化の取り組みについて、大変心強く思っています。 電力業界は地球環境の改善に重大な責任を有する事業に属します。 是非とも先進的取り組みを強く期待します。 今後とも地球温暖化対策に力を入れていただきたいと思います。 CDM/JIプロジェクトの積極的な推進を期待しています。 地球環境保護のためにの益々の技術研究を進めて欲しい。 特に脱CO ₂ のためにも、大間原子力発電所の推進、鬼首地熱発電所の推進を期待したい。	J-POWERグループは、地球温暖化問題への取り組みを経営の最重要課題のひとつに位置付け、「エネルギー利用効率の維持・向上」、「CO ₂ 排出の少ない電源の開発」、「技術の開発・移転・普及」および「京都メカニズムの活用など」の4つの方策を、短期・中期・長期のそれぞれの時間軸で適切に組み合わせ継続的に実施していくことにより、販売電力量あたりCO ₂ 排出量の継続的な削減に努めています。 【J-POWERグループ サステナビリティレポート2010：環境編P45～P56をご参照ください。】
J/Pワーの技術で中国・インドにエネルギー効率や環境負荷に対して低減した石炭火力発電所を共同で立ち上げて欲しい。 地球温暖化対策を強化して下さい。 日本だけでなく世界に向けた貢献を期待します。	J-POWERが保有する石炭火力発電所の高効率技術をインドや中国などに移転・普及することに大きな意義があり、これにより世界の持続可能な発展に貢献していくことが重要と考えています。 J-POWERグループ サステナビリティレポート2010の環境編P46に「石炭利用と地球温暖化対策」を掲載していますのでご参照ください。

Ｊ－POWERグループに期待する取り組み 「Ｊ－POWERグループ サステナビリティレポート2009 読者アンケート」

「地域環境問題への取り組み」について	
ご意見	Ｊ－POWERグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
環境問題への対応が一層求められるようになると思われるが、先進的な取り組みを御社に期待しております。 生物多様性への対応も進められていることがすばらしい。	Ｊ－POWERグループは発電所の新設等をする際には、環境アセスメント（環境影響評価）を実施し、地域の方々などの意見を反映しながら環境保全のために適切な配慮を行うとともに、モニタリングを行いながら自然との共生に向けた環境保全対策を実施しています。 また、事業活動にあたり、生物多様性への配慮を行うとともに、自然環境との共生調和に努めています。
循環型社会の実現・構築の為に研究・開発に更なる努力を期待します。	循環型社会の構築に向け、私たちが排出する廃棄物などの有効利用、発生抑制と適正処理に努めています。廃棄物のゼロエミッションに向けた取り組みは、Ｊ－POWERグループ サステナビリティレポート2010の環境編P63「循環型社会の実現に向けて」をご参照ください。
「透明性・信頼性への取り組み」について	
ご意見	Ｊ－POWERグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
有識者座談会で語られることをどれだけ自社のものとして受け止め、実行に移していけるかが問われます。 身に痛いことを敬遠しない会社であって下さい。 サステナビリティレポートに掲載されているそれぞれの項目（内容）について、しっかりと取り組んで頂きたい。 トップメッセージにあるとおり「持続的成長企業」を目指して、成長・発展して頂きたい。 社会の変化を読み取り、的確に対応していくことを期待しています。	今後とも、『人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展に貢献する』というＪ－POWERグループの企業理念に基づき環境経営に取り組んでいます。幅広い情報公開により事業活動の透明性を高めるとともに、皆様方のご意見を参考とするなど社会のニーズを的確にとらえ、社会からの信頼性を高めていきます。
全社員にコーポレート・ガバナンスの重要性を特に教育して下さい。	コーポレート・ガバナンス（企業経営を規律するための仕組み）を実現することで、企業価値の維持・向上が可能になりますが、そのためには、経営者はもちろんのこと、社員一人一人が使命感、倫理観を持って業務を遂行することが重要となります。 Ｊ－POWERグループでは、社員の意識改革と行動改革のため、社員教育などを実施し「法令」や「企業行動規範」、「社内規程」の遵守を図っています。
カッサダムの管理規程違反は残念です。 一般市民社会に与える大きな問題であることから、越流前に事前設定で危険防止水位を設置すべきである。	カッサダム管理規程違反の件については、ご指摘のとおり一般市民社会に与える影響等、重く受止めています。 これに対しては、国土交通省の指導のもと再発防止策を策定し、また、ダム運用方法の見直しや水位等の監視体制強化を行い、越流を防止するための措置を講じています。 今後ともＪ－POWERグループとして、同様の事態を惹き起こさないよう、継続して再発防止策に取り組んでいきます。
「社会面への取り組み」について	
ご意見	Ｊ－POWERグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
原子力の安全性は未だ担保されていないと考えます。 原子力以外のエネルギー源により力を入れて頂きたい。 原子力発電の重要性は理解できますが、安全性について、一抹の不安をぬぐい切れません。 安全性の確保を最優先に取り組んでいただきたいと思います。 原子力発電への一層の取り組みに期待しています。 原子力発電所の建設に伴う『地下構造に向けた地質と耐震強化・安全性の向上』と『災害に強い建設』を進められますことを期待しています。 原子力関連の写真、情報の充実を希望します。 原子力発電所に関して、資料の充実（安全性について）を望む	青森県下北郡で進める大間（おおま）原子力発電所建設にあたっては、安全性の確保を最優先に取り組んでいます。 【Ｊ－POWERグループ サステナビリティレポート2010：社会編P21～P22の「安全で地域から信頼される原子力発電所を目指して」をご参照ください。】 また、当社のホームページでも「原子力発電事業」を掲載していますので、併せてそちらもご参照いただければ幸いです。 http://www.jppower.co.jp/bs/field/gensiryoku/index.html
人材育成と活力ある職場づくりが第一と感じます。	Ｊ－POWERグループでは、人材は企業のサステナビリティの根幹を担うものと考え、従業員の人格・個性を尊重し、安全で働きやすく、また働きがいのある職場環境の整備を進めています。 【Ｊ－POWERグループ サステナビリティレポート2010：社会編P35～P39をご参照ください。】
安全性の追求だが、その際に情報の透明性を確保する必要がある。 それをCSRコミュニケーションに行って欲しい。	Ｊ－POWERグループの企業活動は、発電所などの地元地域の人々のご理解とご協力に支えられています。 従業員一人ひとりがそれぞれの地域において良き住民であるように、各地の事業所もまた地域とのコミュニケーションを図ることで「良き企業市民」として地域・社会に役立つ存在でありたいと思っています。
『地域』『社会』貢献などにも積極的で素晴らしいと感じております。	地域の人々から信頼され、親しまれる活動を通じて、地域とともに生き、社会とともに成長することを目指しています。

本レポートの改善すべき点など「J-POWERグループ サステナビリティレポート2009 読者アンケート」

「レポート編集」について

ご意見	J-POWERグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
分かりやすく、ポイントをハッキリと記載した方がよい。 写真を多くして説明を簡潔にしてください 読む量が多いため、もう少し簡潔にして頂いてもよい。 各発電所の写真をもっと多くして欲しいです。 情報量、内容が充実して結構ですが、もう少し読み易くまとめてもらえると助かります。 文字の大きさももう少し大きくして欲しい。 もう少し平易で誰でも理解できるようにして欲しい。 本レポートはかなり専門的に書かれており、環境監査員・カウンセラーの私達には興味を持って充分に理解して読めますが、一般的な市民には少し読み難いのではないかと思います。 近頃の流行のマンガを使用するとか、要点を大きな数字で箇条書きにする等お考え下さい。	J-POWERグループの事業活動はエネルギーと環境の両分野に深く関わっていますので、サステナビリティレポートの記載にあたっては正確性を確保することが重要であり、そのため文章量が多くなった箇所もありますが、図表や写真のレイアウトなど視覚的な見やすさを意識して作成し、できるだけ理解し易い内容となるよう努めています。 巻末の用語解説のほか、各ページに【Dictionary】として用語の解説を掲載しています。 また、各ページの記載内容につきまして、より詳細な内容を閲覧できる関係先のホームページのURLもあわせて掲載していますので、ご活用ください。
J-POWERグループの活動状況を会社別に、もう少し具体的に記載して欲しい。	当社のホームページ内の「主なグループ会社」をご覧ください。 http://www.jpower.co.jp/company_info/about/kigyuu/renketsu.html
環境への取り組みをもっと多くしてもらいたい。 環境問題について、もう少し充実させてはいかがでしょうか。 再生可能エネルギー（地熱、小水力、太陽光）への取り組みについて、もっと内容の充実を期待する。 もう少し電源開発の強みである水力に関する特集を入れても良いと思う。	J-POWERグループ サステナビリティレポート2010の環境編では、Topicsとして「礫子火力発電所新2号機運転開始」（P47）や「CO₂排出の少ない電源の開発」（P49～P52）、「生物多様性保全への取り組み」（P59～P60）を採り上げ、様々な角度から環境に配慮した取り組み状況をクローズアップしています。 環境に関する掲載内容の充実に心がけて作成しましたのでご参照ください。
一般市民の常識で理解できる平易な言葉を使われているご努力が良く感じられます。 難解な工業用語解説が添えられている点に感動しました。 資料編は大変有用です。 用語集 keywordが特に役に立ちます。 更なる充実を。 写真及び図面等を交え、非常に分かり易く説明されていて、特に改善すべき点は見当たらない。 御社のことがとても分かり易い内容で纏められており、私のような素人にも納得できるものでした。	読者の皆さまよりいただきましたJ-POWERグループ サステナビリティレポート2009に対する貴重なご意見を、大切なメッセージとして受け取り、今後のレポート作成や事業活動に役立てていきます。